

湿害に強く発芽苗立ちを安定させる大豆の吸水種子作製技術

農業総合研究所

要 旨

大豆は播種直後の湿害に弱く、降雨等で冠水してしまうと発芽不良となり、苗立ちが非常に悪くなる。しかし、4分間散水を4時間間隔で6回処理して吸水させた種子を播種すれば湿害に強くなり、発芽・苗立ちが安定する。なお、吸水種子は、電磁弁とタイマーを散水型の灌水チューブにセットした簡易な灌水装置で大量に作成することができる。

成果の概要

吸水種子は湿害に強く、播種直後に大雨が降っても発芽は良好である(図1)。また、苗立ちは吸水種子の方が無処理に比べて2日ほど早くなる。

吸水種子は4分間の散水処理後4時間休止(放置)し、それを6回繰り返すことによってゆっくりと吸水させて作製する必要がある。

吸水種子は乾燥種子に比べて粒径は大きくなるが、ベルト式播種機のベルト穴を大きくすれば播種作業に支障はない。

粉衣剤による種子消毒は、吸水種子を陰干しして表面が乾燥してから行う。

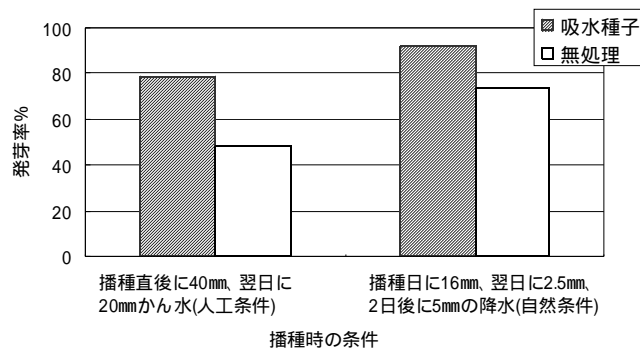


図1 吸水種子の発芽率

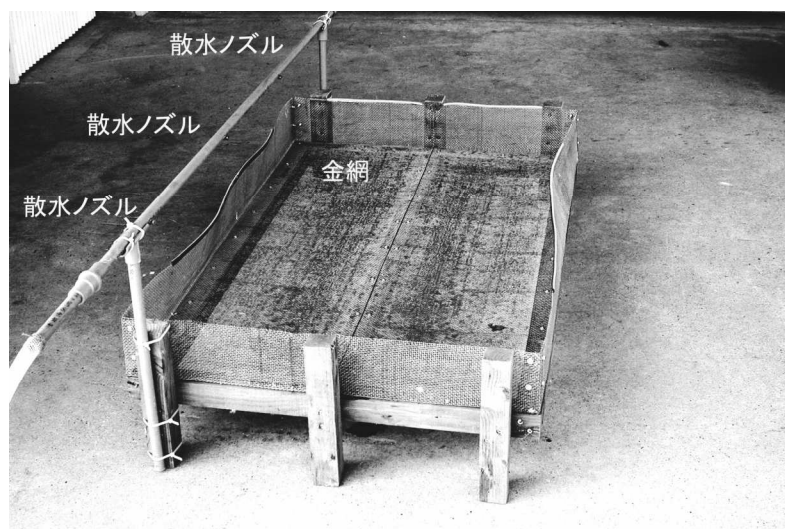


図2 吸水種子作製システム

(問合せ先 : Tel . 0771 - 22 - 5010)